

## 2011.09.21 : 平成 23 年総務財政委員会

ネーミングライツの活用状況について「清盛関係の予算アップを!!」

私がお伺いしたいことは、ネーミングライツを活用して神戸の資金を活用してほしいということを随分前から随分回数を重ねて申し上げてまいりました。当局もできる限りのネーミングライツには取り組んでいきたいと、こういうふうな強い決意のような返事がありましたんですけれども、私どもが見ておる範囲では、ネーミングライツは進んでいないなど、こういうふうに思っておるんです。経済状況等に非常に大きく左右されることですから、あんまりやかましく言うのもどうかなと思いますけれども、ネーミングライツで私は金を稼いでいただきたい。いっぱいあれをしてくれ、これをしてくれということの要求はいっぱいあったって、あなたのところはこれだめ、あれだめと、こういう立場ですからね。

例えば、来年から清盛の大河ドラマが放映されるということになっておるんですね。産振局あたりに清盛関係の予算をどれくらい組んでおるかと聞いていったら4億なんですね。4億は少ないじゃないかという話をして、4億でどれだけのことのできるんだというようなことを聞いてきたんですが、財務が厳しいんでねえ、財務が厳しいんです、二言目にそない言っておりますけど。あんまり厳しく言わんで、4億でいいのかと、もっと言えよというぐらいの度量のあるところを見せてほしいと私は思うんですが、そのためには稼ぐときに稼いでほしいんです。ネーミングライツの現状はどうなっているんでしょうか。

答弁（玉田行財政局長）

ネーミングライツを推進するということにつきましては、新しい行財政改革の計画の中にも当然盛り込んでおりまして、これまでも議会の方からもさまざまなご意見もいただきながら進めていきたいということで——実際進めていきます——手続をしますのは各局の施設でございますので、我々が各局に対して働きかけをしていくというふうなことで、いろんな予算でありましたり、そういうところでも働きかけをしております。当然、各局の方もネーミングライツが実際実現すれば、自分ところの財源が獲得できるわけですから、みずからの施設の必要な整備であったり、そういうのを進めることができるだろうと、新たな事業も進めることができるだろうと思っておりますので、各局も積極的に使っていきたいという気持ちは持っていただいていると思っております。

最近では——これはもともとやっておりましたが、グリーンスタジアムが変わりました。ほっともってフィールド神戸ということに平成 23 年 2 月から新たなネーミングライツを導入したということがございます。それから、こここのところ余り新しいものがないわけなんですけれども——実際にはこれまでいろんな局に働きかけておるわけなんですけれども、北山委員からご指摘がありましたように、やはり経済情勢の影響というのはかなり厳しい状態です。全国的に見ましても、これまでやっておったところが、もうこれで切れてしまったとか、そういうものもあって非常に状況としては厳しいんじゃないかなと。一部のかかなり有名なといいますか、大きな施設、当然目に触れることが多い施設はそういう価値が認められて、値がつくといいますか——ですけれども、すべてということになるとなかなか難しいというふうなことがございますが、そういうことでなかなかちょっと具体化はまだしておらないわけなんですけれども、他都市でやっておったいろんな多様な施設も参考にしながら、各局とは十分前に向いて進めるように我々としては話をしていきたいと思っておりますので、引き続き努力していきたいと思っておりますという姿勢をご理解いただきたいと思っております。

再質問

今の答弁聞いておりましたね、基本的には各局の資産ですから、各局がそれぞれ努力するべきだと、こういうことなんですけれども。努力をするべきことではあるけれども、何か言ったら、もう財務が厳しいからこの事業できません、あの事業できませんと言われるんですからね、あなたの方が各局にもっと強く働きかける必要があると思うんです。今のように各局任せじゃなくて——任せだとは言っていないとは思いますが、各局任せでな

くって、例えばあそこにあるポートタワーあるでしょう、あのポートタワーなんか結構いい値段でネーミングライツつくと思いますよ。あのポートタワーね。ポートタワー1つとってみてもあれだけ大きな施設ですから、大変な——ついとんのん、ものがあるし、ああいうものをずっと探し出したら——私ようけ探し出しておりますからね、できたら一覧表でお渡ししますから、1回それやってください。いっぱい稼げるものを稼いでいない、こういうふうには私は思っております。

なぜこんなことを言うから言うたらね、直接は財務には関係ないことですがけれども、先ほど申し上げましたように、清盛の大河ドラマが始まるんです。大河ドラマが始まることについて、いろんなことを考えておるんですが——ドラマ館だとか、歴史館だとかいうのを考えております。私から見れば、ドラマ館と歴史館は考えておるけれども、その次のやつはあんまりないんです——ちょっとテントでも張って何かしようかなというような程度でね。何でこんなことになるんだ言うたら、何しろ4億円しかないんですと言う。

こういう話の中から、例えば皆さんご存じでしょうか、北前船というのがあったんご存じでしょうか。ご存じ。あの北前船という船が今復活されておるということもご存じでしょうか。今復活されて、青森で建造して、その船が今ずっと全国回りよるんです。全国の北前船が回った港へどんどん入って行って、そこで大歓迎を受けて相当なムードが盛り上がり、青森へ行こうというような観光がいっぱい出てきておるんです。それから考えたら清盛が上映されるんですから、清盛が乗って中国へ交流に行ったような船をね、神戸でもつくろうやないかというぐらいの気持ちになってほしいと思っております。私はそう思っております。お金が幾らかかるんやということやけど、青森があれだけの船ができたんです——約150トンの船だそうですが。その船でやっておるので、神戸だってそれぐらいのことに取り組んで行ってほしいという思いがあります。だから、清盛が乗った船で乗組員は清盛が乗っておった当時の服装で乗ってもらう。これ瀬戸内海だけをぐるっと回ったってすごいと思うんですよ。清盛ゆかりの地というところを——どうせテレビのドラマの中では主に広島県なんかもよう出てくると思いますが、そういうところとタイアップしてやろうやないかとか。あるいはお金がないと言って断わるのが理由じゃなくてね、お金は市民の皆さん寄附してくれませんかとかいう形でやったって——僕は市民だってそういうことで盛り上がるんなら協力しようという機運は上がってくると思うんですが、局長のご見解をお伺いします。

#### 答弁（玉田行財政局長）

もちろん事業については産業振興局が主管となってさまざまな企画をし、そのための予算も計上しておるところでございますので、今、北山委員おっしゃったような例えば北前船、これは名前は私も知っておりますし、たしか六甲の電飾の絵にもなっていたんじゃないかなと思います。そういうことで神戸にもゆかりのあるものだという事ですので、いろんな工夫のネタとして、非常におもしろいんじゃないかなというふうな気はお聞きして思いました。まさにそういう意味では、お金がないと別にしょっちゅう言っているといえますか——あるかと言うとそんなにないと言わざるを得ないのが我々の仕事ではございますけれども、当然それはないから知恵を絞るんだと思います。ですから、今おっしゃったような、こういうイベントといいますか、企画をするから市民の方あるいは企業のスポンサーを見つけてくるというふうなことも、やはり工夫としては要るんじゃないかなと、そういう工夫は各局ぜひお願いしたいなと思っております。逆にそういうことについて我々が何かできることがあるのであればお手伝いをしたいと思っております。

今回の清盛については、単に1局の問題ではなくて、これを契機に神戸に集客をしていただくということは全局挙げての事業だと思っておりますので、我々の局として何か——前にも少し申し上げましたように、例えば遊休地を持ってあって、それが使えるというのであれば使っていただいてもいいと思いますし、そういう何か努力——ご支援といいますか、ご協力できるところがあればさせていただきたいと思っておりますし、今ご提案のあった北前船の件でありますとか、広島などの瀬戸内海の各市とのタイアップについては、当然工夫していくべきだろうと思っております。主体となっております産業振興局の方にはよくお伝えをしたいと思っております。

## 要望

局長の今の答弁で基本的には了解しますけれども、あなたの方が産振局ばかりじゃなくて、ほかの局にもこれくらいのことをやろうやと言うて、あなたはその気になってもらわないかんと思うんでね——あなたが一番大もとでございますから。私は神戸が観光都市神戸という看板を上げれたのは、あの風見鶏だと思っているんです。風見鶏から本格的に神戸は観光都市という看板を上げれたと思っています。今度の大河ドラマは第2の風見鶏だと、こう思っておりますし、それ以上にしなければならんと思っております。そういう意味では、風見鶏は神戸だけでしたけれども、今回の清盛は神戸だけではなくて、瀬戸内海にいっぱい関連するまちやら島があるんですから、そういうところともタイアップする——大きく考えていただいて、そういう船をつくって、クルージングやろうというふうにやっていただいて、全国から清盛のあるクルージングに乗りたいと言って多くの人たちが来てもらえるような、そういう方向で頑張っていたきたい。そのためには玉田さんがほかの人たちに——ほかの局に強く呼びかけてくださることを要望して終わります。

## 新長田に快速停車と東口改札復活について県・市の取組とこれまでの経過について

新長田に快速をとめていただきたい、東口の改札をつくっていただきたいという請願が出てまいりまして、委員会では全会一致で採択されました。神戸市の方も兵庫県に対して快速の停車と東口の開設ということについての県に対する要望書の中に入れてありました——ことし初めてです、あれ入ったんはね。そういうふうになっておりました。その結果、県からはどんな返事が来たんでしょうか。県はどんな返事だったんでしょうかということ、神戸市会が全会一致で採択した事件について、神戸市としては今までどんな活動してきたのか、そのあたりの報告をいただいておりますので、ぜひお聞かせいただきたいと思っております。

## 答弁（山本企画調整局長）

昨年の10月に請願採択という形で私どもも地元の熱い思いというのはひしひしと感じておるところでございます。

ことしも要望するつもりでございますけれども、去年、県要望を出しました。県の回答でございますが、ホーム延伸と信号電気設備の施設などの施設整備、運行ダイヤの広域的な調整、乗降客数の増加などの課題はあるものの、JR西日本への働きかけについては利用者の利便性向上の観点から神戸市とともに取り組んでいくという形で、これまではちょっと引いたような答えでしたけれども、少し前進した回答をいただいております。兵庫県とも協力を仰ぎながら進めていきたいというふうに思っております。

それと、神戸市何しとんかということでございますけれども、採択後、要するに平成23年3月には先生方も、国会の先生方、地元住民の方々と3万1,000人の署名をJR西日本に提出したという形で要望していただきました。大変力強い支援だったというふうに思っております。

都市計画総局が今窓口でございますけれども、JR西日本と意見交換会を請願採択後、平成22年11月に開催してございます。また、平成22年12月には石井副市長、ことしに入って4月には中村副市長がJR西日本の副社長と面談したという形で強く要望してございます。

直近ですけれども、6月にまた意見交換会といったものが開催されまして、今年度から交渉先が神戸支社から近畿統括本部という形で——どうとらまえたらいいのかあれですけれども、ある面でJR西日本の全体の話題ということになってきたのかなというふうに思っております。検討しながら課題について意見交換がされたということでございます。

JR西日本としても地元の思いは重く受けとめておるといふ形、これはもうご承知だと思いますけど、皆様方とともに考えたいという回答がございました。本社と意思疎通を図りながら協議を進めていくという形でございますので、まだちょっとお時間かかりますけれども、進めてまいりたいと思っております。

## 再質問

この採択されてから——採択されるときもう既に県に快速の停車と東口の開設ということについての予算要求というか、意見や要望をしてきておりますね、これは。だけど東口の開設については去年が初めてだったんです。そういうふうなことをして、県の方からもそういう今言ったような返事が来ましたということですけども——県にもそれなりの努力をしてほしいと思うんですけども、東口の問題について、実際のところどこまで動いておるのかなという感じがしておりますし、今、市長がJRの西日本の支社長と会うたとかいう話でしたけれども、これはその採択を受けたことをもって会ったのか、ただ向こうからあいさつに来たときにこんな話がありましたという話だけなのか、そののころをはっきりしてほしいのと、もう1つは、副市長——当時石井副市長ですね、石井副市長が大阪まで行っておるということは確認できておりますが、その大阪へ行って話をしてきた、そのときの経過その他、それ以後の問題につきましても——今、西日本の神戸支社と話しておったやつが、今度近畿統括本部へ話を持っていくことになったということは、これは格上げだと思うから、それはそれなりの意義はあると思うんですよ。意義はあると思うんですけども、市長としてどんな努力をしてもらっておるのかということ具体的に、何月何日にこうしました、何月何日にこういう人と会いましたと、こういう形なのかどうか、このことをテーマに会ったのかどうかというあたりをお聞かせいただきたいと思ひますし、東口を開設することは、神戸市にとってメリットがあると思ひていらっしゃるのか、それはあってもなかつても一緒や思ひておるんじゃないんだろうかというようなことを最近疑うようになってきましたんで、そこらあたりちょっと明確に言ってください。

## 答弁（山本企画調整局長）

市長も地元の皆様方の思いというのはもう十分に理解しております、私どももこれ以外の件で説明に入ったときもどうやというふうな話はされています。

4月にJRの支社長があいさつに来られたときに市長も言ってますし、市長は多分あらゆる機会をとらまえてこの話はされているというふうには私は理解しております。

ただ、やはり今の段階は、事務レベルで1つ1つ検討課題、これは先生ご承知のとおりJRのかなりの検討課題言ってますので、それを詰めていく段階かなというふうには私は思っております。市長にはもう当然しかるべき時期に行っていただくということは、これは疑いのない事実だというふうには考えておりますので、今の段階は事務的に詰めていくと。その中で県もこれは一緒に行った方がいいということであれば行くという形をとっていくのではないかとこのように思っております。

東口は、ちょっと私もJRに聞きますと、あれは地元で説明して了解を得ているはずだという形のことをおっしゃっているんですけども——もともとありましたですね。私も——要するに今のところJRは非常に消極的ですけども、どう考えるのかということですけども、あの辺でよく酒を飲んだら東口から乗って帰ったという経験もございまして、巡回するにはもってこいの場所だなと思ひますので、そら、ある方がいいという形で、私は東口はあった方がいいと思ひてございまして、その気持ちで応援してまいりたい——動いてまいりたいというふうには思っております。

## 再質問

私がいろんなところでいろんな形で話を聞いてきましたときに、JRは東口をつくるのには幾ら、快速を停車するためには幾らかかる、これだけの金がかかるんですというような数字の提示まであったと、こういうふうには私は理解しておるんですが、それはどう考えていらっしゃるのかなということと、もう1つは、私は東口は絶対つくってもらいたいと、こう思ひますのは、あの再開発事業——都市計画をあれだけやっても、東口の方の再開発は一切やってない。もう1つは、地下鉄の山手線ですね、東口があるものとして地下鉄も東口の改札をつくっ

てあるんですね、神戸市営の地下鉄は。そういうものを考えていって、あそこに東口という改札ができます——できるということになれば、あの地域は都市計画の手が入っておりませんから、空き地がいっぱいあるんです。だから、JRから提示された金額と、東口が開設されたら、あの地域はどのように変化するのかということを考えていったときに、どれだけ見合うのか見合わないのかということまで検討しておくのかどうかということをお伺いをしたいと思います

#### 答弁（山本企画調整局長）

確かに新長田の東地区につきましては、私も丸五市場とか、あの辺うろうろしましたけれども、ちょっとまだ区画整理とか、そういったことはされてなくて、よく言えば昔の長田の思い出がいっぱい残っておる地域だなというふうに思っています。

先生、今数字が出ていると。数字はちょっと聞いてございません、私どもは。ちょっと都計に確認しますけれども、数字何ぼやというのはちょっと聞いてございません。費用については聞いてないということでございます。

いずれにしても、例えばそういったものの必要性が生じて、そういった費用対効果みたいなものを計算してJRに言っていくということになれば、都計とも検討してまいりたいと思っておりますけれども、そのような状況になっているのかどうか。私が思うのは、ちょっと現実的に構造面で難しいという話がありますので、構造面で難しかったら何をしてもできませんので——それもやりたないための言いわけか、ちょっとわからないんですけども。今の日本の技術をもってしたら、できないことはないのではないかと。しかし、あんな原発事故がありましたから、なかなかその技術も信用できなんですけども、日本の技術をもってしたらできんことはないと思うんですけども、何か構造面でできないというようなことも伺っていますので、今そのあたりを詰めているのではないかとというふうに思っています。

#### 要望

何回も済みませんね。数字は聞いていないと、こういうことですが、私が聞いとるのに、そっちが聞いてないと言われたら、これもうさっぱり話にならないのでね、今ここで数字を言うわけにも——言わない方がいいと思えますから、1回部屋にでも寄ってくれたら、ちゃんとした数字を見せますから見てください。

実際あそこね、お金かけたって元は取れる場所だと。快速とまっていない現在の乗降客が快速がとまっておる兵庫駅とちっとも変わらないし、舞子よりもはるかに上ですし、ほかの駅よりももっとふえているんです。だからJRがやる気になれば、すぐにでもできる数字なんです。だからそういうことを踏まえて、企画調整局長が山本さんの間に仕上げていただきたいと思うんですがね、お願いしておきます。